

今朝、蝉の声を聞きました。新暦の七夕の日です。この号がお手元に届く頃は梅雨も明けて、本格的な夏の暑さとなっていることでしょう。ご自愛の上お過ごし下さい

平山先生の薬のお話、第一回はLドーパです。良く読んでください。何かお聞きになりたいことがありましたら遠慮なく事務局の方へご一報ください。

作品集の原稿をお送り下さい。会報についてのご意見でも何でもかまいませんからぜひ、お一人一作品お寄せ下さい。お待ちしております。

秋、10月29日(土)豊橋市で医療講演会を予定しています。詳細は次号9月号に発表します。続いて半田市でも実施したいと考えています。応援して下さい。

一日交遊会は大変な人出でしたが、楽しく過ごしました。ありがとうございました。

日 盛 や 離 陸 着 陸 見 て 飽 か ず 博

目 次

自分の運は自分で運ぶ	丹羽 浩介	2	～	3 p
一日交遊会で感じたこと	山尾 佐知子	4	～	5 p
総会・分科会を終えて	肥後 ひとみ	6	～	7 p
全国大会に参加して	鈴木 たか子	8	～	9 p
Lドーパの話	平山 正昭	10	～	11 p
作品集		12	～	23 p
宮地 泰一郎	鷹羽 貢	荻谷 みつ子	成松 幸江	
山本 奉孜	越澤 博			

## 自分の運は自分で運ぶ

会長 丹羽 浩介

- ★ 越澤さんから会報用の原稿の督促を受けました。あとお前の分が出来れば印刷に回せるというのです。私のもっとも得意な分野は精神論です。ここら辺をコラム風に書かせてもらいます。
- ★ 今年は、1月に広島県と滋賀県。4月に岐阜県。6月に長野県。2月に一ノ宮保健所に話しに出かけました。其処でお話しすることは一つです。ATM 明るく 楽しい 毎日を という事に絞って話しています。いろいろの難病の人たちを知るようになると、病気にもそれぞれタイプのあることが分かってきました。例えば、XX病は明るい雰囲気がある、XX病は暗い感じとか、XX病は悲惨な感じといったところ。さて、そうなるに我がパーキンソン病は外から見てどのように写っているのでしょうか。パーキンソン病のイメージは、静かとかまじめ、と言ったところでしょう。
- ★ 昨7月5日に越澤さんと豊橋の「東日新聞社」に行きました。本年10月29日に豊橋地区で初めての医療講演会を開くための協力要請です。前日に面談の予約を取り資料を持って出かけたのですが、大変好意的な接遇を受けました。何事もやるのは良いのですが、問題は人集めです。幸い、豊橋保健所と東日新聞のご協力を得ることができました。
- ★ 豊橋での医療講演会は、常とは逆の形でスタートしました。まず、名古屋大学神経内科祖父江教授の日程調整からです。次に、人集めの協力要請、最後に会場探しです。この辺のタイミングは大変難しいものです。東日新聞社を出て歩み始めると、道路標識にあわせて「中部地区市民館」の表示が眼に入りました。早速足を運ぶと、会場の受付の方は超好意的なのです。少し狭いかな、と言う気はしないではありませんが、場所探しも片付きました。どうも、事務局長の越澤さんは運の良い方のようです。
- ★ 人生に運というものは大切です。運に関する有名な話にこういうのがあります。

ナポレオンがある作戦の指揮をとる将軍を選ぶときに「その男は運が良いか」と聞いたというのです。運の良し悪しに客観性があるかどうかは別にして、私は30歳頃より自分は運の良い人生を送っているということに気がつきました。なぜそのように思ったのかは思い出せません。しかし、運の良いのは事実です。

- ★ 普段の生活では忘れていますが、何か困難な問題、大きな問題、見通しの立てにくいときになると、自分は運が良いと自然に思うようになりました。自己暗示の典型的なものかもしれません。でも、このように思い込むことが、私の人生を支えてくれています。大抵は自分の思うように進んでいるのです。思うようにならない時もきっとあったのでしょう。その時は運のことは頭にありません。だから、私は常に運が良いのです。これが私のパワーの源泉です。
- ★ ところで「運」をどのように読むかご存知ですか。「運」は「運ぶ」と読みます。そうですね。人生の運は、自分で運ぶ。このことに尽きるように思います。そうすると、自分で運んだパーキンソン病への道、これも、実は私にとっては運の良いことになります。このように言うと、お前の症状は軽いからと言われそうです。
- ★ でもつい最近このようなことがありました。6月16日、東京の元オリンピック村、本年の全国総会の日でした。飲酒の関係で、まるでふにやふにや人形です。一緒にいた人たちに助けられてやっとの思いで部屋にたどり着きました。その時にいた仲間の人たちは上機嫌でした。「元気に思っていた丹羽さんが、こういう状態もあるのかと思うと自然と私にも勇気がわいてきた」と言うのです。この辺で運の話は、ひとまずおくことにします。
- ★ 今朝は3時頃よりこの原稿を書いています。本日は午後3時発の長距離バスで新潟に行きます。中条町には午後11時頃に着きます。全国会報は新潟支部の木村久男さんが版下業務を担当しているのですが、彼の家に行って会報102号の最終調整をするためです。仮寝して、明7日一日限りで、構成と校正をします。その夜の新潟発の深夜バスで帰路につきます。概略48時間後、再び我が家に居るといわけです。
- ★ こう言う訳で、私の生活はパーキンソン病漬けになっています。でも、少しでも皆様に元気になっていただければとそれ一心です。

## 一日交遊会で感じたこと

山尾 佐知子

6月10日は友の会一日交遊会で中部国際空港・セントレアに集合でした。お天気に恵まれて少し暑い位でしたね。展望台から見る大きな飛行機の離陸を久しぶりに見て、ちょっと子供心に帰ったような楽しい気持ちを味わい乍飛び立つ雄大さに、あんな大きな物がとんでゆく……？童心に返ったひと時でした。

昼食後、静かな空間の場所でみんなでコミュニケーション・大きな声を出しましょうと会長より一人一人に話しかけられ、少しでも大きな声が出るようにと励まして頂き、みんな一所懸命努力致しました。ふだん何気なく出している声・話をしている時の声ですが、大きな声といわれるとなかなか出ないもんなんですね。でも、思い切って大きな声を出した時、大きな声が出た時何か気持ちまで大きくゆとらか（おだやか）になったようなそんな気がしました。毎日自分で努力するといいいですね。

希望者だけで常滑市にある世界のタイル博物館へ行きました。美しい彩の絵柄のタイル・土と炎で作られている。これにも感激、人が作った温もりを感じます。機会があれば自分のオリジナル・大きな器を作りたいなあと思いました。

いつも思う事ですけど、友の会でお会いする会員さんは皆同じ病気の人達ですものね。それが一番嬉しいですね。安心します。今回も素敵な方にお会いできました。85歳の蟹江さんにお会いして皆大きな勇気を頂いたと思

ます。30歳の時パーキンソン病と出合って現在85歳・55年間もパーキンソン病と戦って、いいえ仲良くかなあ……？ そんなはずありませんよね。幾多の苦しみや痛みを乗り越えての今日この頃だと思われま。その姿はすっきりとしてとても美しく思いました。色んな事を噛みしめて、すべてをプラスに考えるようになさっているのでしょうか。その笑顔はやさしく素敵でした。私達若い者は見習って心の持ち方を学びたいですね。

もう一つ感じた事です、男の方・ご主人のやさしい事、私もそうですが私の身近には奥様が病気なのでご主人にお世話になっているカップルを沢山見ます。そのご主人方のとてもやさしく奥様を大切になさっている姿に頭が下がる思いでした。

子育てに夢中になって、やがて成長した子供にホットしてまもなく病気と出会う。誰も望んでいないのにね。仕事に一所懸命頑張ってくれている主人に世話になって情けない気持ちとくやしい気持ち。でもそれ以上に主人の方が情けない思いを横に置いて世話をしてくれる事に、早く気づいて素直な気持ち・感謝の気持ちで従わねばいけませんね。そのように心掛けたいと思います。病気の私達は集いがあっても誰かにお世話にならないと出られませんよね。でも勇気を持って身近な人をお願いをして、自分自身も外へ出る事・人に会う事を喜びとして出かけるように致しましょうね。また、皆様にお目にかかれる日を楽しみに一日を大切に過ごしたいと思ひます。有難うございました。お元気で。



## 総会・分科会を終えて

若年部 肥後 ひとみ

第29回全国パーキンソン病友の会総会及び分科会が6月16・17の両日東京代々木の「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催されました。本年度は丹羽会長・鈴木たか子さん・肥後の3名が参加しました。丹羽会長は16日の早朝会議の為前日一人で先に行かれ、鈴木さんと私は当日雨の中、右も左も解らない東京に二人で不安を抱えながら新幹線・山手線と乗り継いで何とか代々木の会場へたどり着く事が出来ました。

全国大会への参加は3度目になりますが総会は初めて参加させて頂きました。大会の内容は鈴木さんが報告しますので私は感想だけ述べさせて頂きます。

40支部のうち33支部が参加し、代議員63名中57名の参加者があり、傍聴者の方も大勢参加されていました。事前に総会議案書を頂いてその中から質問や意見を各支部の代議員が担当役員に質問する形で色々な意見や質問が出て活気あふれる総会だったように思いますが、私が気になった事は質問や意見に対する担当役員の方の応答の内容が明確でなかったように思いました。もっと明確な答えを期待していたので少し残念な結果になってしまいました。

総会后、恒例の交流会があり3名とも参加させて頂き、年に一度の全国大会でしか会えない方達と再会し近況報告をしたり新しい参加者を紹介されたり楽しいひと時を過ごさせて頂きました。同じ病を持つもの同士初めて会った方でも気軽に話が出るのです、不思議ですよ！安心感があるのでしょうか！？

翌、17日は分科会、全国大会。丹羽会長（若年部担当役員）と私は若年部会へ鈴木さんは全国大会へそれぞれ参加しました。事前に若年部会の報告をするつもりでいたのですが急に「受付をやって下さい」と言われ受付を引き受けてしまい前半の部分は参加出来なかったのが報告出来ません。誠に申し訳ございませんが参加出来た部分だけでも報告させて頂きます。



私が参加した時にはもう会議室の中は座る所も無いぐらい大勢の参加者があり、改めて若年性の患者がこう言う表舞台に出て来るようになって少しは若年部も役に立っているのかな？  
今後若年部がどのような活動をして行くのか方向性を決めて行こうと言うテーマで議論していた所でした。

木村若年部長は今まで通り8部門（福祉、介護・相談・医療・法制・就労支援・広報・リハビリ・IT）に分けて行う。と言われ、反対意見として一つにまとめる例えば就労問題だけにしてそれだけ集中して行う。  
活発な意見、提案が出ましたがいろいろな難しい所がありなかなかまとまらずにいましたが木村部長が「8部門で活動すると決めてまだ実際には活動していない、一度も活動していない物を評価出来ない、だから1年待って下さい。」と言われ今年度は今まで通り8部門で活動し来年度に評価を受けそれからもう一度考え直そうと言う形になりました。

提案にあった若年性患者の体験文集作りも製作することに賛成多数で決まり、これから応募を募集すると思います。

若年部はこれで3回目の総会ですが年々会員さんの数も増え、部会も活気づいて来ているように思います。始まった当初は会議をしていても発言する人は決った人だけだったのが今ではいろんな人が活発に発言するようになりました。  
若年性患者にはいろいろな問題があります。でも全国に同じ思いをしている仲間が居る事を忘れずにこれからもがんばって行こうと思います。

今後も誰でも自由に発言できるそんな若年部であってほしいと思いました。

お世話して頂いた役員のみなさまお疲れ様でした。  
そしてありがとうございました。

### お知らせ

お気軽掲示板「MAG」がリニューアルしました。新アドレスです。

<http://www2/ezbbs.net/35/5691158329/>

みなさん、お気軽に一度開いてみて下さい。





全国大会に参加して

鈴木 たか子

私が東京に行くのは実は二回目で、4月11日の国会陳情の時は各県別に分かれていたのであまりプレッシャーを感じませんでした。・・・今回の全国大会では、これからの活動方針とか・・・役員さんも大変だなあ・・・という思いが第一印象です。

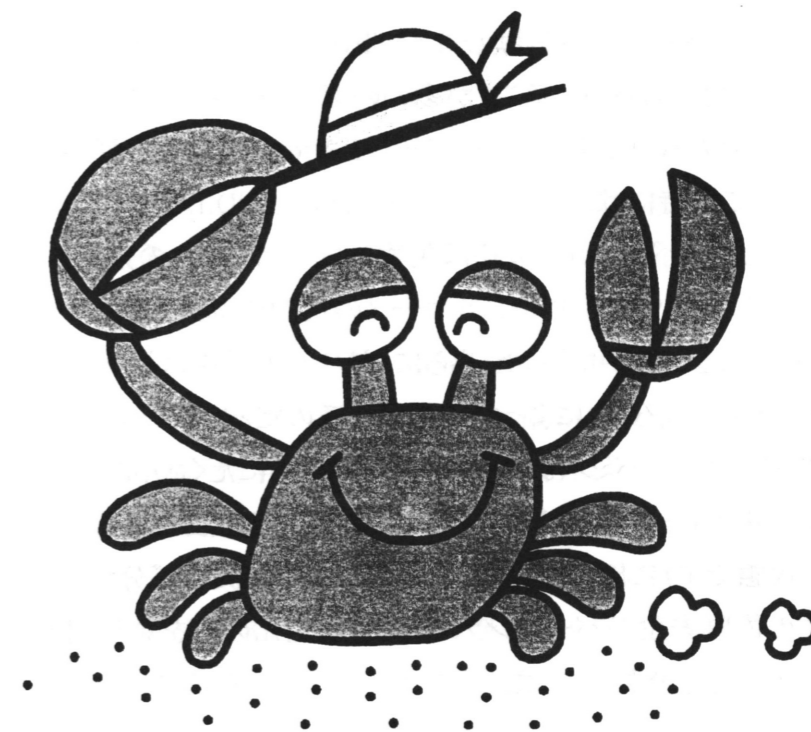
初日、今後の活動方針、収支決算とか色々の話がありました。それから質疑応答があり、色々な人がいましたが我が愛知県代表の丹羽さんの優しさが身に沁みて感じ取れました。

二日目はそれぞれの班に分かれて討議するのですが、私は介護・福祉の会に出席しました。講師は北里大学のスペシャルケースワーカーの上篠眞子先生でした。まず、医療費について。15年福祉制度が厳しくなって更に17年11月からはもっと厳しく(高齢者増加)なる医療費。就労に関すること、休業補償とか色々話がありましたが、私が一番関心を持ったのは、在宅介護・入浴リハビリ・福祉用具の賃貸等でした。介護用品も色々あって、レンタルで自分に合ったものを選ぶことが大切です。

質疑応答のなかに、ケアマネジャーと相性が合わない時はどうしたらよいかというのがありました。ケアマネジャーにも得て不得手があるので辛抱しないで、ケースワーカーに相談するといいということでした。

介護の等級も全国都道府県で違いがあるので各自研究して、各自申請してくださいとのことでした。役所からは何も言ってこないの各自申請してい

くことが大事なことで痛感しました。介護保険も払っているのだから遠慮しないで、いつか良いケアマネジャーに会えることを念じつつ私の感想を申しのべました。



会費納入のお願い

17年度会費の納入をお忘れの方、早速郵便局からお送りください。5,000円の小切手を同封の上、普通郵便でお願いします。小切手には何も記入しないでください。

事務局 〒458-0847 緑区浦里1-68-508

越澤 博

## L-ドーパの話

平山正昭

パーキンソン病患者さんで少し勉強すると必ず最初に出てくる薬が L-ドーパです。しかし、知っているようで実は知っていないことがあります。たとえば、なぜドーパの前にLがついているのでしょうか？今回は、一番知っているはずの L-ドーパについてお話します。L-ドーパの正式名称は L-3,4-dihydroxyphenylalanine です。薬というのは、今でこそ化学工場で作られることが多いのですが、昔はほとんどが植物や動物のエキスから抽出されたものです。この L-ドーパも Vicia faba という豆から 1911 年に抽出されたものです。この時には、しかし L-ドーパではなく、D,L-ドーパでした。ところで、こうして見つかったドーパですが、最初は生物学的には、なんの効果もないものだと思われていました。しかし、1930 年にグルコースの代謝に効果があったり、血圧をあげることに効果があることが分かりました。さらに、ドーパの効果はドーパ脱炭酸酵素で変換されてドーパミンに成ることによって効果が出るのだということも分かってきました。ところで、脳の中ではドーパミンは、基底核というところにたくさんあり、レゼルピンという抗うつ薬で脳の中のドーパミンが少なくなってしまう時(この状態は薬剤性のパーキンソンニズムの状態です)にドーパを飲むと状態が良くなることが分かりました。そして、1959 年に日本の佐野先生がパーキンソン病の患者さんの脳を見ると脳の中でドーパミンが不足していることを発見しました。そこで、ドーパミンを頭に補充する方法が考え出されたのです。ところで、皆さんは L-ドーパを飲んでいますが、ここで、なぜ、ドーパミンそのものではなく L-ドーパを飲むかという、脳には血液脳関門というバリアーがあって脳に入っていいものと悪いものを分ける機構があります。その中で、ドーパミンは、脳に直接取り込まれません。脳には、いらぬものとして血管から脳の中には入らないようになっているのです。一方、ドーパは脳に取り込まれるので脳にまずドーパを取り込ませ、脳の中に入ってから、ドーパミンに変換させる方法をとっているのです。実際 1967 年になってドーパの大量投与によりパーキンソン病の治療が開始されました。ところが、ここでもう一つ問題がありました。ドーパは光学異性体といって D 体と L 体があります。少し難しくなりますが、同じような構造式でも右旋性 (dextrorotatory) と左旋性 (levorotatory) では、効果は同じでも、脳の中には L 体の L-ドーパしか取り込まれないのです。この時代には、まだ L 体と D 体を別々に精製する方法が十分に分かってなかったため、患者さんが必要でない D 体のドーパも飲まなくてはならず、副作用も大きかったわけです。さらに、せっかくドーパを飲んで脳に取り込まれる前に血液中の酵素

でドーパがドーパミンに変換されてしまうので、これも大量に飲まなければならない原因でした。しかし、L-ドーパの精製とドーパ脱炭酸酵素を阻害する DCI という薬ができたことがきっかけとなって少量の L-ドーパと DCI を併用することが可能となりました。その結果、副作用を少なくしてパーキンソン病の治療が行えるようになってきたのです。それが、1970 年でした。現在、皆さんが飲んでいるメネシット、マドパー、EC-ドパールといった薬はすべて L-dopa と DCI の合剤です。皆さんの中でレナードの朝という映画をごらんになった方はいるでしょうか？この中に出てくる患者さんは嗜眠性脳炎という特殊な病気の患者さんですが、パーキンソン病と大変良く似ていて L-ドーパが非常に良く効きます。全く動けなかった患者さんが、動き出し、更にみんなとダンスを踊る場面はこの映画の感動的な場面です。しかし、しばらくするとこの病気の患者さんは薬の副作用ばかりで薬の効き目は悪くなってきてしまいました。1970 年に L-dopa と DCI の合剤が出てきたとき、神経内科医はパーキンソン病が簡単に直るものと考え患者さんの状態を良くしようとして、大量の L-dopa と DCI の合剤を投与しました。ところが、映画のように急ではありませんが、パーキンソン病の患者さんも最初は良く効いたのにだんだん副作用が出てきて特に身体が勝手に動いてしまうジスキネジーという症状や次の薬を飲むまでに前の薬の効果が弱くなってしまふ wearing-off 現象や on-off 現象が現れるようになりました。この原因は、あまりドーパを飲んでると薬の吸収が急峻になってしまふとすぐに血中のドーパが増えるけどまたすぐに無くなってしまふからではないかといろいろな原因が考えられていますがまだすべて分かっていません。それが、1980 年代に入ってから問題となってきました。実験的にも、あまり大量のドーパミンは脳の神経に毒性があるのではないかという報告も出てきました。となると、薬の副作用ばかり出るので、薬を少なくしようとする。しかし、薬を少なくすると動けなくなってしまう。また、もともとパーキンソン病の患者さんは便秘の方が多いのに L-ドーパを飲むと余計に便秘になりやすいことも分かりました。

さあ、そこで医師は何とかしようとして次の薬の開発へと向かったのです。それが、ドーパミンアゴニストなどの薬ですが、話しも長くなってしまったのでそのお話は次回に書くことにいたします。今回は、ドーパミンアゴニストについて詳しく書こうと思います。

## 作品集

運命の若き鉄道採用者達 (1) 江南市 宮地 泰一郎 (76 歳)

昭和18年3月、尋常高等小学校卒業後の就職時に、当時は米軍機の空襲があちこちの都市に始まった頃で、いよいよ本土にも及ぶようになっていた。私は以前から国鉄に勤めることが夢で、古知野南小学校の同級生の3名が同じく国鉄又は鉄道が好きであったので、3名一緒に国鉄に入るために、担任の先生に、その旨お願いしたところ、国鉄側は今年からの新採用は、空襲が頻繁になり、国鉄の沿線にある市町村の者しか採用しないことになったと知らされた。その代わりに先生によると、当時の朝鮮は、明治四十二年の日韓併合で、日本の領土となっていた。その朝鮮総督府交通局（日本でいえば国鉄に相当）の駅員を募集していた。勤務駅は現在の北朝鮮の吉州（キルジュ）駅であるとのことであった。3名で相談して、よかったら行かないか、勿論試験を受けていただくことになりましたが・・・その結果3名共合格して一緒に行くことになった。

運命の若き鉄道採用者達 (2)

故郷を後に希望を抱いて出発したのは昭和十八年四月二十二日、満十四歳でした。途中、名古屋駅から急行に乗り下関で下車。二十三日下関から関釜連絡線で朝鮮の釜山（プサン）に上陸しました。釜山駅で朝鮮鉄道の客車に乗車してびっくりしました。三人掛け広軌でした。釜山から京城（ソウル）経由して咸鏡本線吉州駅へついたのが四月二十六日の夜でした。翌日からは

内地あちこちからの長旅で、駅に着いた日本人の若い十四歳～十五歳の三十名でした。五月一日から四ヶ月間は駅会議室で鉄道の規定、他の勉強をして終了後は大きい吉州駅の他、近くの駅に配属されました。

朝鮮鉄道の主要幹線に位置していた吉州邑の吉州駅は、白岩、恵山鎮方面と咸鏡本線の清津、羅南方面の分岐点の駅として、機関区、保線区、検車区等の組織が配置されていて、駅員は約100名、一日の乗降客は4,000名ほど、乗り継ぎ客は約1,500名、乗車券発売収入も約8,000円あり、清津、城津などに次ぐ北朝鮮の主要駅であった。

### 住めば都

昭和十八年九月一日付で、吉州駅・駅手を命ずる。日給一円三十五銭を給する。という辞令がでて頑張れました。

今の中学校生二年生位をみると、よく分かりますがほんの子供です。同級生と一緒にいえど遠路はるばる四日間もかかってきた当地での生活は、本当に寂しく心細いものでした。夜になると、つい涙が頬から枕を濡らすこともあった。しかし、若いから三ヶ月から六ヶ月を過ぎた頃から、ホームシックもおおくに忘れたように、住めば都で、近くの駅に温水坪（オンスイヒョク）駅という温泉駅があり、当時の勤務方は一昼夜交代で、非番の日には友人達と温泉に出かけて楽しむことも出来るようになりました。

昭和十九年一月一日付で吉州駅出札掛となって、切符の発売をしておりました。



### 故郷へ吉州のリンゴを送る

吉州邑の吉州駅近郊の山間部は、リンゴや梨がよくとれる所である。秋になるとリンゴや梨がよくとれるので故郷へリンゴを送ってやりました。内地では戦時下であり、リンゴや梨は病人用等の外は、手に入らなくなっていました。そんな頃こちらでは自由に手に入っていましたから。時には珍しいゴールデン・デリシャスを送ったところ、本当に驚いた様子で、弟から黄色いリンゴを送ってきたと自慢して、喜んで知らせてきました。

しかし、荷物が安全に日本へ着くような時ではなくなっていた。昭和十九年も終り頃には内地と朝鮮の間を結ぶ連絡船が米国の潜水艦の攻撃で沈没が多くなっていた。戦況は日増しに悪くなってきており、私も最近では故郷へのリンゴの送りが出来なくなっていました。しかし、私達の大変お世話になった、朝鮮鉄道就職の恩人でした故郷の小学校の先生に心をこめて送ったリンゴが、船の沈没もなく無事到着していた。だが荷物が着く前に先生は病気で亡くなられていた。遺族の方が、このリンゴは朝鮮から教え子が送ってきた供物ですよと仏前に供えてあったと聞きました。直接、先生の手が届けなかったが残念でした。(先生のご冥福をお祈りします)

### 咸興地方交通局養成所入所・終了

昭和二十年二月咸興地方交通局養成所入所試験に合格。同三月一日入所、四ヶ月間勉強、六月三十日駅務科終了した。終了後二十年七月一日付で雇員となり、日給から月給となって、月給六十二円となりました。

### 吉州駅周辺の終戦の受取方

われわれの吉州駅周辺の終戦の受取り方について、八月十五日に天皇陛下から終戦のお言葉があると、ラジオで聞くことのできる人は聞いたようだが、日本とソ連の関係があり、八月八日はソ連が対日宣戦布告をし、八月九日に参戦したため、十一日から広い地域の満州とソ連の国境から、朝鮮とソ連の国境から一斉に怒涛の如き進攻に、日本軍は大きい反攻もなく本当に心細いものでした。

八月十六日には、ソ連軍の空爆機が午前七時に一機、午前十一時に二機、午後一時に六機による機銃掃射と午後には駅構内と機関区の一部を破壊された。八月十五日に終戦の放送があり停戦になった筈なのに、なぜという疑問が起こらざるを得なかった。それに輪を掛けるような吉州では最も大きい、爆撃機十三機による二時間に亘る爆撃で市街は壊滅状態であった。この八月十八日十二時頃のソ連機による反復を繰り返し、これでもかこれでもかと空爆が続けられた。駅の構内で一番高い給水塔が先ず吹きとんだ。同時に機関区の機関車格納庫が崩れ落ち、構内の線路がアメのように曲がった。爆弾の大きな穴が蜂の巣のようだ。

### 二度目の大空襲

駅の南側にあった駅貨物室が空爆で跡形もなく吹き飛んでいた。私は空襲警報が入るとすぐ駅長の安見安平と一緒に、貨物室の近くの小さな蛸壺に入って(二人用)爆撃に備えて息を殺して、蛸壺の下の方で耳をおさえ恐怖に

身を震わせていると、爆弾の炸裂する音がだんだん近くなってきて、ガーンという音と爆風に体が上に浮いた感じがして気を失っていましたが、どの位の時間が過ぎたか分からなかった。気が付いて頭を上げると、入っていた蝸壺の上からの半分が、至近弾によってコンクリートが斜めに切断され、その下で駅長と私の二人が助かった。私はこのために左耳が聞こえにくくなり、後遺症は六十年経過した今でも難聴として残っている。

この二時間に亘るソ連空軍機による最後の空爆によって、鉄道関係の駅と機関区、保線区と駅付近の線路、駅前と市街地の建築物の全てを破壊された。

(つづく)

庭の沈丁花が満開となりました。

主人は嗅覚が弱くなり春の花の水仙や沈丁花の香もおわないそうです。

サラリーマンの頃は、玄関先で「今夜はごぼうのにおいがする」なんて、いつも当てていた頃を懐かしく思い出します。貧乏ゆすりをよくする人なので「ねえ、たまには金持ちゆすり(?)してよ」などと、ジョークを言っていました。その動きが止まらなくなり受診してパーキンソン病と診断されました。3年が過ぎました。左手足の振戦が少しずつ進んでいますが、朝の洋服を着るのに時間がかかるそうです。家の掃除、草取りと今のところはよく動いてくれます。ただ、外出先の銀行などで記入用紙に書く事は全然出来ません。人前で緊張すると振戦がひどくなります。日常決められたレールの上

の事は良いのですがハプニングが発生すると即振戦となってしまいます。

もともと便秘気味でしたが薬を飲む様になりひどくなりまして、一時体重が10kg減となりました。漢方薬を最初試しましたが、そのうち臭いが耐えられなくなり、現在は一ヶ月に一度の国立長寿センターの方の便秘薬が合うのでそちらで処方してもらっています。パニック障害もでましたがこれは「リーゼ」を服用する様になり無くなりました。

性格的に本当に几帳面な人なので物事の思考がいつもネガティブで「ケ・セラ・セラ」とはいかないので、もっとゆったり楽天的に考えられれば、ドーパミンも消滅しにくいのでは・・・などとお気楽な(?)性格の私は考えたりしています。主治医は若い方ですがとてもよく話も聞いて下さり信頼関係も出来ていますので幸いです。

櫻も咲いて嬉しい春です。お元気でいらして下さい。 鷹羽 貢

鷹羽十九子

私方こと入会約1年、色々とお力になっていただき又会報等いただき誠に有難うございます。先日はお便りにより知り名古屋大学医学部「パーキンソン病講習会」へも聴講させていただきました。何といたっても特効薬は無く、有効な施術もない現在、悲しい毎日です。でも「歌を唄うこと」に活路を見出し“下手なハーモニカを吹くこと”と歌を唄うことで少しでも元気を求めている昨今です。

荻谷みつ子・代筆 良一(夫)

## 私と仏画

成 松 幸 江

私はパーキンソン病友の会に入会して丸二年になります。一度も投稿した事はありませんでした。でも読む事は大好きですので、会報等はすみからすみまで二度も三度も読み返しております。でも発病以来だんだん字が書けなくなりました。こうして書くときも鉛筆と消しゴムを片手に、一字書いては消し又書いては消しですからなかなかかどりません。それに読みづらいつと思ひますがおゆるし下さい。

私は現在七十九才になります。六十二才の時に主人を亡くしました。主人は退職後、大工仕事が好きな人でしたので、趣味で仏像の彫刻をはじめました。もともと器用な人でしたので教室へかよって一年位で、とても上手になり大黒様などはいくつも作って皆様にさしあげていました。亡くなる半年位前の展覧会の折、出品した釈迦如来の光背が細かい唐草模様ですがとてもきれいに出来ていて、京都の大仏師の先生にほめられたと目を輝かせて私に報告してくれた顔が今でも忘れられません。こんな主人の影響で私が仏画を習うようになりました。二十年位前の事です。主人が亡くなってよけい仏画にのめり込むようになり、京都の展覧会には毎年出品しておりました。そうすると自然に道具や材料も増えて、絵の具等は十年位の在庫がある程でした。

それが今から四年位前、パーキンソン病の宣告をうけてから手がどうしても動かず細かいことが全然できないのです。細かいことどころか真っ直ぐの線も書けず、絵の具も杵からはみ出してしまうのです。ショックでした。

私はこれまで平成七年より五回位いろいろな病気で入院をくりかえし、やっと落ち着いた時のパーキンソン病の宣告でした。そのストレスのせいか胃から出血して又入院を余儀なくさせられました。そんな落ち込んでいた頃に友の会に入会しました。皆様方の体験談だとか、会長のご本だとかいろいろな先生方のお話を聞いているうちに、いつか病気を忘れるようになり、それまでは外へ出るのもいやだったのに今では女学校時代の友達にも会い、クラス会等にも出ることができるようになりました。ただ気だけは元気でも体は思うように動かないので、友達が心得ていて、いつも助けてくれるのです。

これからもまた仏様を描きたいのです。でも今までのような大きなものは描けません。色紙位に描いて自分で楽しみたいと思っております。

とりとめのないことを長々と書いてしまいました。おゆるし下さい。

とにかく私は、今は皆様のお陰で生きて居られると思っています。いつも感謝の毎日です。

こんにちは志摩の山本です

櫻の季節になりましたが、朝夕はまだまだ寒いおり健康には十分気を付けて下さい。丹羽支部長始め役員の方々有難う御座います。会報を楽しみに待つ一人としてお礼申し上げます。

会報によると中島さんが骨折・又丹羽支部長も少し体調を崩していた様で



すが良く成りましたか？

私は去年の暮れ頃から歩いて居た病状が走り出したように悪くなってきました。常に身体はゴムの様です。特に腹にはへドロ状の物が年中有る感じでスッキリしません。また朝の特に悪い日は腹部、腰の廻りの締め付けが強くと、ズボンがゆるく成るので良く分かります。又腹が怒り出すと此れが大変です。引っ張ると言うか、固まると言うのか、腹を中心に折りたたみの携帯電話の様に成ろうとするので、立って居れず横になります。こんな状態の時一人では横になれず、女房に手を貸してもらい俯けにしてもらいます。仰向けは駄目です。腹が引っ張り起き上がろうとするからです。私の場合この病気は底無し沼の様にドンドン悪くなって行きそうです。だけど、其れが良い時は、自転車で健全者に負けずに、走れるから、これまた不思議ですよネ。

これは以前詩のつもりで書いた物ですが何も無いので添えておきます。

ある朝の一齣です。

明るくなるのを待って、「愛犬サクラ」と散歩に出る。

磯笛峠に行く坂道で、前に行くサクラが何か吠えている、

重い足で余り変わらないが急ぐ。

何か居るのかと「サクラ」の傍に寄ると一匹の {アカテガニ} が

足をたたみ込んで死んだ振りをして居た

他の仲間は冬眠したと言うのに、この場所では危ないぞと・俺は

独り言を言いながら捕まえて安全な場所に移そうとすると、

死んだ振りをして居た {アカテガニ} は、爪を上げ思いっきり背伸びして自分を大きく見せ俺を威嚇してきた。

良く見ると爪は一本・足も一本足りない、そんな痛々しい姿でも戦おうとする {カニ} の姿を見て、病気に押されて元気の無い、今の俺は、ボロボロになってもあきらめない事を再確認させられた思いがした。

其の {アカテガニ} にお礼の変わりに俺はお題目を唱えてやった。

{カニ} は何もしないと通じたのか道端の草むらにユックリ姿を消した。頑張ろうぜの言葉が自然に出た。



一冊の本

越澤 博

五月中旬、定期健康診断を受けにM病院へ行き珍しい人に出会った。退職後S大学の図書館で嘱託として働いていたころお世話になったH教授で、十年ぶりである。

いろいろ話し会って、分れ際に教授が一冊の本をくださった。臼井吉見著「事故のてんまつ」である。まだ、私が三十代の当時、雑誌で読んだ記憶があるが今一度読みなおした。ノーベル賞受賞作家・川端康成の自殺について書いたものである。

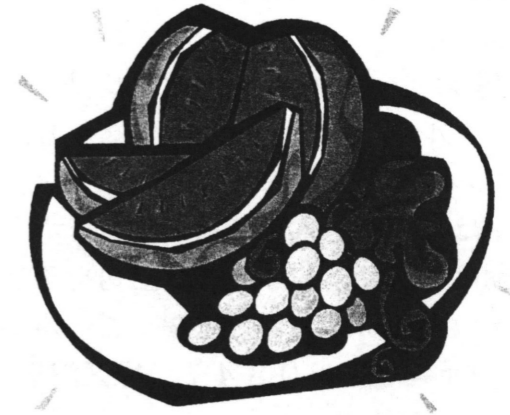
前篇は植木屋・庭繁の娘、縫子を見初め、執拗に口説き、嫌がる縫子を半年という期限付きで、お手伝いとして住み込ませ、しぶしぶ承知した縫子に康成の特別扱いが始まり、異常なまでのえこひいきがお手伝い仲間にも知れわたっていく。半年という期限が迫ると、あと半年延ばしてくれないかと懇願された縫子は頑なに拒否する。

だめ、———ですか？とひとりごとのようにつぶやく康成に縫子はふかぶかとお辞儀をして立ち去る。その日の午後、康成は自殺をする。

後篇では縫子の件が自殺のきっかけとなったのは事実であるが、川端康成の出生から、その全作品を通じて自殺の原因を検証する。

康成は母の胎内にあること七ヶ月の未熟児あり、その母にも三つのときに死なれてしまう。康成と生母とのつながりはそんなにもろく、はかなかったのである。だからこそ、康成の無意識の世界では生涯を通じて母につながろ

う・ゆくえの知れない母の姿を追いかけようと必死になったに違いない。それが康成の文学の原動力だったかも知れない。母の愛への飢えが若い女性への根強い執着となったのでは・・・と著者は言っている。康成の孤独像を浮き彫りにしている。(読んでみたい方に、この本を贈呈します。教授も読んだら次の人にあげて下さいとおっしゃっていました。)



本町クリニック・服部神経内科

院長・服部 達哉 副院長・服部 優子

音楽療法・八月はお休みです  
なお、9、10、11月は第3土曜日です

〒460-0008 中区栄3-20-29

TEL 052-249-0101

診療時間 午前9:30~12:30

午後3:00~ 6:30

休診日 木・日・祝日 土曜の午後

(有) メディカル在宅マッサージセンター

フリーダイヤル: 0120-194004

〒453-0851 中村区畑江町8-18-1

TEL 052-483-3388

第2・4土曜・日曜・祝日 休み

## 秋の一泊旅行

(健康フサに変更)

秋の一泊旅行ですが今年は天然温泉を掘り当てた名古屋市のだ真ん中・名古屋クラウン・ホテルで過ごしてはということになりました。つきましては皆様のご意向を伺いたく7月31日までに次の項目にお答えください。

1. 参加する
2. 部屋はシングルとダブルとありますがどちらを希望されますか  
シングル 6,500 ~ 8,000円  
ダブル 11,400 ~ 13,600円
3. 費用は食事代を入れて約一万円です。
4. 時期は10月下旬か11月上旬を予定しています。
5. お手数ですが事務局・越澤へご一報ください。

(〒458-0847 緑区浦里1-68-508)

## ありがとうございました

山畑 照雄さんからテープ・平家物語全6巻（解説・国東文麿）をいただきました。

発行人	特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 TEL 03-3416-1698 FAX 03-3416-3129
編集人	愛知県パーキンソン病友の会事務局 越澤 博 TEL/FAX 052-891-3482 愛知県パーキンソン病友の会事務所 TEL・FAX 0562-32-4590 郵便振替口座00830-2-50411
加入者	愛知県パーキンソン病友の会
頒布価格	500円